

金沢動物園で実施した外部団体との連携イベントについて

○正木美舟
(横浜市立金沢動物園)

これまで金沢動物園では、様々なアウトリーチ活動を実施してきた。近年、イベントを実施するにあたり、野生動物やその保護、生息地での保全の重要性を伝えている動物園が、“実際に野生動物に貢献できることは何か”を検討した。その結果、来園者やイベント参加者に、保全や保護についてアピールしたり、現状を伝えるだけでなく、それらを知ったうえで、更に一步踏み出す機会につながるイベントを実施することが重要だと考えた。しかし、これは市営動物園として独自で実施するには難しく、外部団体との連携を行うことで、より具体的に実施することができるようになった。ここ数年で実施してきた外部団体と連携したイベントと、その1例である2023年3月に実施したZoo to Wild Fes Spring～楽しくSDGzoo～(以下ZtWFS)について紹介する。

近年のいくつかのイベントでは、来園者により深くメッセージが浸透するように、「絶滅危惧種」や「身近ないきものと私たちのつながり」など伝えたいテーマを定めて実施している。

ZtWFSは、テーマをSDGsとして、それに関連する団体と連携しブース出展(パネル展示・物販)、ステージ企画、クイズラリーなどを実施した。物販ブースでは売上がその団体の活動資金等となり、生息地での保全活動へと繋がる。また、バナナペーパーや認証マーク付き商品の物販は、日常で購入可能な商品を知り「つくる責任・つかう責任」を認識し、自分たちの配慮が今後の地球の未来につながり、街で暮らす自分たちも身近な生活の中で貢献できることを知る機会となった。また、団体が参加することで、企業と連携して実施している商品作製段階で廃棄される珈琲滓の金沢動物園内での有効利用や、園内の竹林維持のための循環を生む活動についてもアピールする場となった。

更に、各団体の活動や商品について紹介するため、イベントステージでのアピールタイムを実施した。これにより来園者の理解を深めるとともに、販売の促進にもつながり、動物園側のイベント実施目的、外部団体の取り組みや商品のPRと、双方にとってより効果的なイベントとなった。